

調 達

東京エレクトロングループは、社会の発展に貢献し健全かつ持続的な成長を遂げていくために、取引先さまとのコミュニケーションを大切に、グローバルな環境でともに成長し続ける関係を築きます。

【生産動向説明会 参加企業数】

約300社

取引先さまとの関係を重視し、当社の事業概況・活動方針などを共有するために、生産動向説明会を開催しています。2013年度秋季説明会には、約300社の取引先さまに参加いただきました。



2013年度に開催した「TELパートナーズデイ」

CSR活動のサプライチェーンへの展開

当社グループは、日常のコミュニケーションに加え、「TELパートナーズデイ」「生産動向説明会」などの場でも、さまざまなCSRへの取り組みを紹介し、取引先さまとのより良い関係づくりを目指しています。また、取引先さまには、インターネット上で児童労働や強制労働の禁止をはじめとする労働関連法令の遵守、基本的人権の尊重などをお願いしています。2013年度は、新たな取り組みとして、主な取引先さまとの間でEICC®の行動規範を参考にした「CSRアンケート調査」を実施し、結果の評価、フィードバックを行いました。さらに、STQA (Supplier Total Quality Assessment) を改訂し、CSRに関する項目を追加しました。取引先さまの活動がより双方向で具体的なものとなるよう、引き続き取り組みを進めていきます。

調達BCPへの取り組み

調達BCP	調達BCPスキーム	発生後対策	①被災状況調査・影響評価 (調達BER※1)	スピード・精度
		事前対策	②復旧支援・調達対策 (調達BDR※2)	
	③取引先さまとのBCP体制整備	リスク最小化		
	④取引先さまとの尊敬と信頼による継続的な関係づくり			

調達 BCP

当社グループの災害対策については、継続的に取引先さまと連携した活動を進めています。災害発生時にいち早く被災状況を確認し、速やかな復旧に向けた対応ができるよう調達品の生産拠点の情報をデータベース化しています。2013年度は、取引先さまとデータ内容を見直した結果、約14,000拠点を登録し、実際にこのデータをもとに被災状況を9回確認しました。また、年に一度「調達BCPアンケート調査」を実施し、結果のフィードバック、その後の改善活動などを通して、取引先さまとともにリスク低減活動を進めています。

紛争鉱物の種類

紛争鉱物名	使用用途例
タンタル	電解コンデンサ、集積回路、耐熱金属
スズ	ハンダ、めっき、還元剤
タングステン	超硬合金、電子部品機構
金	集積回路、めっき、コネクタ

紛争鉱物

当社グループでは、コンゴ民主共和国および近隣国産出の鉱物の中で、武装集団の資金源となっており、人権侵害、労働問題などの根源になっている紛争鉱物(タンタル、スズ、タングステン、金)を使用した原材料、およびこれらを含む部材・部品などの採用を排除していく方針です。2013年度に実施した取引先さまへのアンケート調査では、産業界における「Conflict Free」に向けた取り組みの拡がりを改めて確認しました。2014年度より、取引先さまにCFSI※3策定書式での製錬所調査をお願いする予定です。

用語解説

※1 BER: Business Emergency Response、災害発生直後の初期対応。

※2 BDR: Business Disaster Recovery、被災調査の結果に応じて発動する災害復旧対応。

※3 CFSI: Conflict-Free Sourcing Initiative、EICC®とGeSI (Global e-Sustainability Initiative) による組織。紛争鉱物の製錬所について、コンゴ民主共和国および周辺諸国における武装勢力の資金源になっていないか、監査、認定を実施している。